

<巻頭言>

会長就任挨拶

安永 悟
久留米大学

このたび初年次教育学会会長に選任されましたので、この場をお借りして一言ご挨拶申し上げます。何分にも学会運営には慣れておらず、会員の皆さんにはご迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが、精一杯、与えられた職責を果たすために努力を重ねる所存です。

私は、互恵的な信頼関係を基盤とする他者との関わり合いを通じた「一人ひとりの変化成長」と、その先に立ち現れてくると信じている「全ての人が幸せに暮らせる社会」の実現に関心があります。これらの目的を達成するためのひとつの手段として、協同学習の立場から、学校や大学における授業研究を推し進めています。最近「協同による活動性の高い授業」を標榜し、小学校から大学までの先生方と一緒に、学生の視点に立った授業づくりに勤しんでいます。そこでは、協同学習の理論と技法に依拠しながら、授業の計画と実践はもちろんのこと、学校や大学などの教職員全体を対象とした教育力の向上について、理論的かつ実践的に検討を加えています。

このような背景をもつ私が本学会に期待することは、初年次教育に熱い思いをもつ会員の皆さんが気軽に集え、研鑽を積める場、仲間との協力・連携を通して切磋琢磨できる場、皆さん一人ひとりが活躍でき、自他の変化成長を実感できる場、そんな場として本学会が認知され、活用されることです。

さて、本学会が取り組むべき課題は少なからずあります。学会の研究・実践活動としては、広く普及した初年次教育の質的充実があげられます。初年次教育は、制度設計の段階から授業の質を高める段階への移行期にあると考えています。初年次教育の質的充実は、初年次教育のなかで完結するものではありません。一方では専門教育を中心とした2年次以降の大学教育との、他方では高校教育との、教育内容と教育方法の接続を図るなかで決定されると考えています。

また、学会の運営としては、年次大会を中心とした学会活動の再検討や、事務局機能の外部委託を含めた運営体制の再構築などが、喫緊に解決すべき課題としてあげられます。特に、初年次教育の質を高めるためには、これまで以上に会員相互の活発な情報交換が必要になります。地域別に草の根的な研究集会を開催することも一案だと考えています。また、情報交換の場としての本会誌「初年次教育学会誌」の役割強化も求められています。ぜひ、皆さん方の研究・実践活動をさらに活発化し、その成果を本会誌へ積極的に投稿していただきたいと思います。

これらの課題を解決し、大学教育のさらなる改善に向け、会員の皆さん一人ひとりの心と力をあわせて前進したいと思います。皆様のご理解とご協力、学会活動への積極的な参加を、是非とも、よろしくお願い致します。

(初年次教育学会会長)